

アナログ温湿度計

取扱説明書

このたびは、当社製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
ご使用前に、この取扱説明書を最後まで必ずお読みいただき、正しく安全にご使用ください。
お読みになった後は、いつでも見られるよう大切に保管してください。

輸入販売元 株式会社 ドリテック

安全上のご注意

ご使用前に「安全上のご注意」をよくお読みいただき、正しくお使いください。以下の警告マークを表示している事項はいずれも安全に関する重要な内容です。必ずお守りください。

警告	人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容
注意	人が傷害を負う可能性および物的損害の発生が想定される内容

禁止	してはいけない内容	指示	実行しなければならない内容
----	-----------	----	---------------

警告

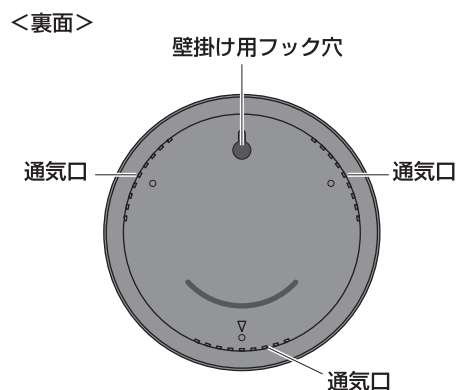
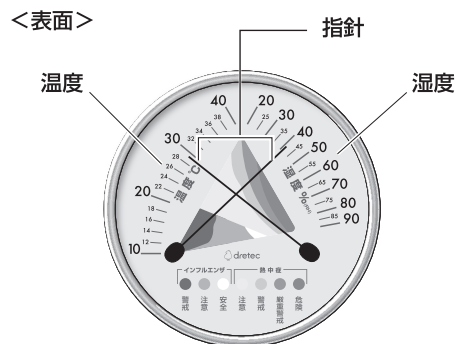
禁止	- 絶対に分解・修理・改造をしない。けがの原因になります。 - 乳幼児のそばで使用したり手の届くところに置かない。 - 自分で操作できない人や補助を必要とする人、取り扱いに不慣れな人だけで使用させたり、手の届くところに置かない。 - 誤飲・けがの可能性があります。 - 通気口の穴にピンや異物などを入れない。けが、故障の原因になります。
----	--

注意

禁止	- 落としたり、ぶつけたりなど強い衝撃を与えない。ガラスが破損してけが、故障の原因になります。 - 直射日光の当たる場所や高温になる場所、水のかかか場所に放置しない。 - 本体を直接火に当てたり、火の近くに置いたりしない。 - 溶剤や薬液などをつけたり、かけたりしない。本体が変形し、故障の原因になります。
指示	- 壁に掛けて使用する場合は、落下などしないことを確認する。 - スタンドを使用する場合は、水平で安定した場所に設置する。故障やけがなどの原因になります。

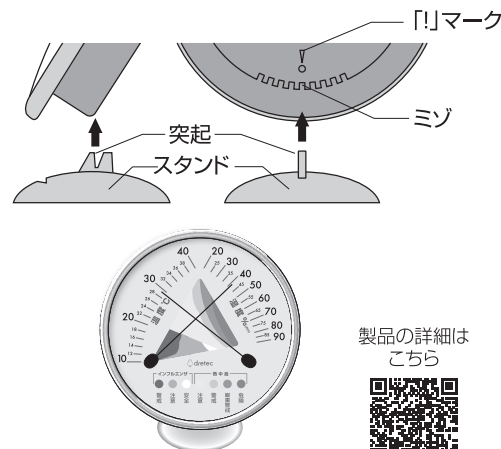
各部の名称

※本書に記載されているイラストはイメージです。



■スタンドの使い方

スタンドの突起を、本体裏面の「！」マーク下の通気口（ミゾ）にしっかりと差し込んでください。



スタンド使用イメージ

製品の詳細はこちら



設置場所について

直射日光の当たる場所やエアコン・暖房器具・加湿器などの近くを避け風通しの良い場所でご使用ください。

- ⚠ 通気口をふさがないように設置してください。正確な測定ができません。
- ⚠ 雨や水の当たる場所での使用は避けてください。故障の原因になります。

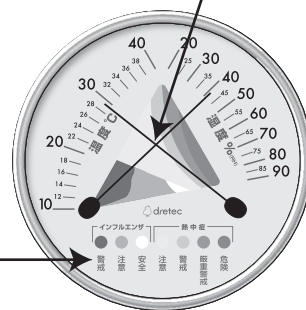
ご使用方法

■温度・湿度

本製品を正面から見て、指針が指している温度、湿度の目盛りを読みます。

■熱中症・インフルエンザ警告

本製品を正面から見て、指針が交差している位置のパネルの色を確認します。



パネル下部の色の説明から現在の環境を確認します。詳細は本取扱説明書の裏面（P5、P6、P7）を参照してください。

- 本製品は、一般的な日常生活での温度・湿度の目安としてご使用ください。
- 本製品を商取引や公に温度・湿度を証明する場合には使用しないでください。
- 温度・湿度の誤差や、熱中症・インフルエンザ警告などによる二次的な損害等に対し、弊社は一切の責任を負えないことをご了承ください。

お手入れ方法

本体の汚れは、濡らして固く絞った布などで拭き取ってください。

- 汚れがひどい場合は、台所用中性洗剤を少量含ませた布などで拭きとってください。
- 熱湯・アルコール・シンナー・ベンジンなどは使用しないでください。変色・変形・破損のおそれがあります。

故障かな？と思ったら

●指針が動いていない、数値がおかしい

- ・初めてご使用になるときの場所を移動したときは、数値が安定するまで時間がかかるため、同じ場所に10～30分ほど置いてから確認してください。（急激な変化の場合はさらに時間がかかることがあります。）
- ・通気口がふさがれていると正確な測定ができません。
- ・エアコンの風が直接当たる場所や、暖房器具・加湿器などの近くでは正確な測定ができません。

万一、製品に不具合がありましたらお買い上げの販売店または、「株式会社ドリテックお客様サポート」よりお問い合わせください。

輸入販売元 株式会社 ドリテック

〒333-0811 埼玉県川口市戸塚2-11-8

URL: <https://www.dretec.co.jp>

お客様サポート



仕様

品番	0-329	
品名	アナログ温湿度計	
寸法	約 幅 127 奥行 32× 高さ 127mm	
質量	約 100 g (スタンド含む)	
表示範囲	温度	10～40℃（1目盛り：2℃）
	湿度	20～90%（1目盛り：5%）
精度	温度	10～30℃：±1℃ その他の範囲：±2℃
	湿度	30～90%：±8% その他の範囲：±10%
材質	本体：ABS樹脂 フレーム・パネル：アルミニウム フロントケース：ガラス	
測定方式	バイメタル方式	

※製品の仕様は改良などのため、予告なく変更することがありますのでご了承ください。

■ **熱中症とは**(出典　ひと涼みしよう　熱中症予防　声かけプロジェクト)

熱中症は、気温が高いことなどで、身体の中の水分や塩分(ナトリウムなど)のバランスが崩れたり、体の調整機能が正常に働かなくなることによって引き起こされます。人の身体は、常に熱を作り出す一方、汗をかくいたり、皮膚から熱を逃がすことで、体温の上昇を抑えています。このような体温の調節機能がうまく働かず、体内に熱がこもり、体温が異常に上昇することで熱中症は起こります。また、真夏日や熱帯夜が多い年は、熱中症で亡くなる人も増えます。一般的には、最高気温が25度を超えると患者が発生し、30度を超えると熱中症で死亡する人の数が増えはじめると言われています。

日常生活における熱中症予防指針
(出典　日本生気象学会:日常生活における熱中症予防指針 Ver. 4, 2022)

温度基準 (WBGT)	注意すべき 生活活動の目安	注意事項
危険 (31℃以上)	すべての生活活動で おこる危険性	高齢者においては安静状態でも発生する危険性が高い。外出はなるべく避け、涼しい室内に移動する。
厳重警戒 (28℃以上31℃未満)		外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意する。
警戒 (25℃以上28℃未満)	中等度以上の生活活動で おこる危険性	運動や激しい作業をする際は定期的に充分に休息を取り入れる。
注意 (25℃未満)	強い生活活動で おこる危険性	一般的に危険性は少ないが激しい運動や重労働時には発生する危険性がある。

WBGTとは？
酷暑の環境下での行動に伴うリスクの度合を判断するのに用いられる指標です。環境省ではこれを暑さ指数と称しています。人体の熱収支に影響の大きい湿度、放射、気温の3つを考慮しており、湿球温度、黒球温度、乾球温度の値を使って計算します。スポーツや高温の職場などでの熱中症等を予防するために国際的に利用されており、ISO 07243、JIS Z 8504などとして規格化されています。

室内用の WBGT 簡易推定図 Ver.4																			
室内用 Ver.4 日本生気象学会		相対湿度 [%]																	
		20	25	30	35	40	45	50	55	60	65	70	75	80	85	90	95	100	
気温 [℃]	40	28	29	30	31	32	33	34	34	35	36	36	37	38	38	39	39	40	
	39	27	28	29	30	31	32	33	33	34	35	35	36	37	37	38	38	39	
	38	27	28	29	29	30	31	32	33	33	34	35	35	36	36	37	37	38	
	37	26	27	28	29	29	30	31	32	32	33	34	34	35	35	36	36	37	
	36	25	26	27	28	29	29	30	31	31	32	33	33	34	34	35	35	36	
	35	24	25	26	27	28	28	29	30	30	31	32	32	33	33	34	34	35	
	34	24	25	25	26	27	28	28	29	30	30	31	31	32	32	33	34	34	
	33	23	24	25	25	26	27	27	28	29	29	30	30	31	31	32	33	33	
	32	22	23	24	24	25	26	26	27	28	28	29	29	30	31	31	32	32	
	31	21	22	23	24	24	25	26	26	27	27	28	29	29	30	30	31	31	
	30	21	21	22	23	23	24	25	25	26	26	27	28	28	29	29	30	30	
	29	20	21	21	22	23	23	24	24	25	26	26	27	27	28	28	29	29	
	28	19	20	21	21	22	22	23	24	24	25	25	26	26	27	27	28	28	
	27	18	19	20	20	21	22	22	23	23	24	24	25	25	26	26	27	27	
	26	18	18	19	20	20	21	21	22	22	23	23	24	24	25	25	26	26	
	25	17	17	18	19	19	20	20	21	21	22	22	23	23	24	24	25	25	
	24	16	17	17	18	18	19	19	20	20	21	21	22	22	23	23	24	24	
23	15	16	16	17	18	18	19	19	20	20	21	21	22	22	23	23	23		
22	15	15	16	16	17	17	18	18	19	19	20	20	20	21	21	22	22		
21	14	14	15	15	16	16	17	17	18	18	19	19	19	20	20	21	21		
【注意】 この図は「日射のない室内専用」です。屋外では使用できません。 また、室内でも日射や発熱体のある場合は使用できません。そのような環境では、 黒球付きの WBGT 測定器等を用いて評価して下さい。																			

■ **日常生活での熱中症予防について**

熱中症予防には水分・塩分補給をすることが大切です。
こまめに水分・塩分補給ができるように、スポーツ飲料などの飲み物を持ち歩きましょう。
特に幼児・学童や高齢者は、のどが渇く前に飲む、空調が効いた場所で休憩をするなどして熱中症対策をしてください。

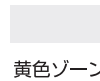
- ・ **水分・塩分補給の目安**
(出典　日本生気象学会:日常生活における熱中症予防指針 Ver. 4, 2022)
(1)日常生活における水分補給：通常の生活では食事等に含まれる水分を除いた飲料として摂取すべき量は1日あたり 1.2ℓを目安とする。
(2)運動時や作業時の補給：水分の補給量は体重減少量の7～8割程度が目安となる。体重の2%以上の脱水を起こさないよう注意する。
大量の発汗がある場合は、スポーツ飲料などの塩分濃度0.2%程度の水分を摂取する。
作業前：コップ1～2杯程度の水分・塩分を補給する(コップ1杯200ml)。
作業中：コップ半分～1杯程度の水分・塩分を20～30分ごとに補給する。
作業後：30分以内に水分・塩分を補給する。
(3)飲酒時の補給：アルコール飲料は利尿を促進するので、飲酒後は水分・塩分を十分に補給する。
(4)空調装置使用時の補給：空気が乾燥するので、こまめに水分・塩分を補給する。

・ **特に注意を要する事項(熱中症弱者の温度基準域)**
(出典　日本生気象学会:日常生活における熱中症予防指針 Ver. 4, 2022)

- 以下の項目に該当する場合は、特に注意が必要であり、一つ上の温度基準域の「注意事項」を適用する。本人のみならず、周囲の人々の注意も必要である。
- a. 幼児・学童は体温調節機能が未発達であり、保護者の対応が不適切になると発症しやすい。
 - b. 65歳以上の高齢者、特に75歳以上の後期高齢者は発汗能や口渴感等、体温調節機能が低下する。このために熱中症を発症しやすい。
 - c. 肥満者は、より体温が上昇しやすい傾向にあるため、熱中症を発症しやすい。
 - d. 仕事や運動(スポーツ)に無理をすぎると、人、頑張りすぎる人は熱中症を発症しやすい。
 - e. 基礎疾患(高血圧、心疾患、慢性肺疾患、肝臓病、腎臓病、内分泌疾患など)のある人、寝たきりの人は発症しやすい。熱中症の発症を助長する以下のような薬を服用している人も発症しやすい。抗コリン作用のある薬(鎮痙薬*、頻尿治療薬*、パーキンソン病治療薬*、抗ヒスタミン薬、抗てんかん薬、睡眠薬・抗不安薬、自律神経調節薬、抗うつ薬、 β 遮断薬、ある種の抗不整脈薬、麻薬)は発汗抑制を来する可能性がある。利尿剤は脱水を来しやすい。興奮剤・覚せい剤は代謝を亢進させる。多くの抗精神病薬*は体温調節中枢を抑制する可能性がある。*医薬品添付文書に、「発汗(あるいは体温調節中枢)が抑制されるため、高温環境では体温が上昇するおそれがある」との記載のある薬品。
 - f. 発熱、下痢、二日酔い、睡眠不足等、体調不良の場合は発症しやすい。
 - g. 農作業、安全対策作業等で厚着、安全服等で全身を覆う場合は発症しやすい。
 - h. 急激に高温となった場合。例えば暑さに慣れていない6月以前、また、日常生活で高温暴露の経験が少ない場合、旅行や移動(涼しい場所から高温の場所へ)の場合および気象変化などで急激に高温となった場合なども発症しやすい。

■ **熱中症警告表示方法について**

温度計の指針と湿度計の指針が交差している位置が下記の警告に該当します。

	注意	警戒	厳重警戒	危険
熱中症 (WBGT)	 黄色ゾーン	 ページゾーン	 茶色ゾーン	 赤色ゾーン

WBGT による温度基準域

注意	警戒	厳重警戒	危険
25℃未満	25℃以上 28℃未満	28℃以上 31℃未満	31℃以上

- 熱中症の症状と対策
- ・ **注　意**：熱中症の危険は少ないですが、兆候に注意しましょう。
スポーツなどの活動をしている方は、適度な水分補給を心がけましょう。
 - ・ **警　戒**：熱中症の危険が増えています。
スポーツなどの活動をしている方はこまめに休息をとり積極的に水分補給をしましょう。激しい運動は30分おきくらいに休息をとりましょう。
 - ・ **厳重警戒**：熱中症の危険が高まっています。
スポーツなどの活動をしている方は激しい運動を避けてください。
体力の低い方、暑さに慣れていない方は運動を中止してください。
積極的に休息と水分補給を行ってください。
 - ・ **危　険**：熱中症の危険があります。
特別の場合以外はすべての運動を中止してください。体温の上昇に注意し、十分な休息と水分補給を行ってください。

■ **インフルエンザ警告表示方法について**

湿度とインフルエンザウイルスの関係
温度計の指針と湿度計の指針が交差している位置が下記の警告に該当します。

色表示	絶対湿度 ^{※1}	インフルエンザウイルス 感染の危険度	感染対策	生存率 ^{※2}
安全	 17g/m ³ 以下 白色ゾーン	通常の生活環境	温度・湿度を適度に保つ ようにしましょう	ほぼ0%
注意				
 グレーゾーン	11g/m ³ 以下	インフルエンザウイルスが生存可能 感染に注意が必要な環境	温度・湿度の変化に 注意しましょう	5%
警戒	 7g/m ³ 以下 黒色ゾーン	インフルエンザウイルスの生存に適した 状態 感染しやすい環境	加湿器などで湿度・温度の 調節をしましょう 過剰に加湿した場合はカビ の発生に注意してください。	20%

※1 絶対湿度
一般的に湿度を表す場合は相対湿度であり、ある温度の空気中含むことができる最大限の水蒸気量に比べて、実際のどの程度の水蒸気量を含んでいるかを%(単位)で表します。絶対湿度とは、温度に関係なく1m³の空気中含まれる水蒸気の質量のことでg/m³(単位)で表します。例えば相対湿度が同じ50%の場合でも、20℃では絶対湿度約9g/m³、30℃では15g/m³と異なります。本製品のインフルエンザ警告表示は絶対湿度に換算した値で表示しています。

※2 生存率
空気中に放出されたインフルエンザウイルスの各環境下における6時間後の値。

■ **熱中症とは**(出典　ひと涼みしよう　熱中症予防　声かけプロジェクト)

熱中症は、気温が高いことなどで、身体の中の水分や塩分(ナトリウムなど)のバランスが崩れたり、体の調整機能が正常に働かなくなることによって引き起こされます。人の身体は、常に熱を作り出す一方、汗をかいたり、皮膚から熱を逃がすことで、体温の上昇を抑えています。このような体温の調節機能がうまく働かず、体内に熱がこもり、体温が異常に上昇することで熱中症は起こります。また、真夏日や熱帯夜が多い年は、熱中症で亡くなる人も増えます。一般的には、最高気温が25度を超えると患者が発生し、30度を超えると熱中症で死亡する人の数が増えはじめると言われています。

日常生活における熱中症予防指針
(出典　日本生気象学会:日常生活における熱中症予防指針 Ver. 4, 2022)

温度基準 (WBGT)	注意すべき 生活活動の目安	注意事項
危険 (31℃以上)	すべての生活活動で おこる危険性	高齢者においては安静状態でも発生する危険性が高い。外出はなるべく避け、涼しい室内に移動する。
厳重警戒 (28℃以上31℃未満)		外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意する。
警戒 (25℃以上28℃未満)	中等度以上の生活活動で おこる危険性	運動や激しい作業をする際は定期的に十分に休息を取り入れる。
注意 (25℃未満)	強い生活活動で おこる危険性	一般的に危険性は少ないが激しい運動や重労働時には発生する危険性がある。

WBGTとは？

酷暑の環境下での行動に伴うリスクの度合を判断するのに用いられる指標です。環境省ではこれを暑さ指数と称しています。人体の熱収支に影響の大きい湿度、放射、気温の3つを考慮しており、湿球温度、黒球温度、乾球温度の値を使って計算します。スポーツや高温の職場などでの熱中症等を予防するために国際的に利用されており、ISO 07243、JIS Z 8504などとして規格化されています。

室内用 Ver.4 日本生気象学会		相対湿度 [%]																	
室温 [℃]		20	25	30	35	40	45	50	55	60	65	70	75	80	85	90	95	100	
	40	28	29	30	31	32	33	34	34	35	36	36	37	38	38	39	39	40	
	39	27	28	29	30	31	32	33	33	34	35	35	36	37	37	38	38	39	
	38	27	28	29	29	30	31	32	33	33	34	35	35	36	36	37	37	38	
	37	26	27	28	29	29	30	31	32	32	33	34	34	35	35	36	36	37	
	36	25	26	27	28	29	29	30	31	31	32	33	33	34	34	35	35	36	
	35	24	25	26	27	28	28	29	30	30	31	32	32	33	33	34	34	35	
	34	24	25	25	26	27	28	28	29	30	30	31	31	32	32	33	34	34	
	33	23	24	25	25	26	27	27	28	29	29	30	30	31	31	32	33	33	
	32	22	23	24	24	25	26	26	27	28	28	29	29	30	31	31	32	32	
	31	21	22	23	24	24	25	26	26	27	27	28	29	29	30	30	31	31	
	30	21	21	22	23	23	24	25	25	26	26	27	28	28	29	29	30	30	
	29	20	21	21	22	23	23	24	24	25	26	26	27	27	28	28	29	29	
	28	19	20	21	21	22	22	23	24	24	25	25	26	26	27	27	28	28	
	27	18	19	20	20	21	22	22	23	24	24	25	25	26	26	27	27	27	
	26	18	18	19	20	20	21	21	22	22	23	23	24	24	25	25	26	26	
	25	17	17	18	19	19	20	20	21	21	22	22	23	23	24	24	25	25	
	24	16	17	17	18	18	19	19	20	20	21	21	22	22	23	23	24	24	
	23	15	16	16	17	18	18	19	19	20	20	20	21	21	22	22	23	23	
	22	15	15	16	16	17	17	18	18	19	19	20	20	20	21	21	22	22	
	21	14	14	15	15	16	16	17	17	18	18	19	19	19	20	20	21	21	
【注意】この図は「日射のない室内専用」です。屋外では使用できません。 また、室内でも日射や発熱体のある場合は使用できません。そのような環境では、黒球付きの WBGT 測定器等を用いて評価して下さい。																			

日本生気象学会：日常生活における熱中症予防指針 Ver. 4, 2022

■ **日常生活での熱中症予防について**

熱中症予防には水分・塩分補給をすることが大切です。
こまめに水分・塩分補給ができるように、スポーツ飲料などの飲み物を持ち歩きましょう。
特に幼児・学童や高齢者は、のどが渇く前に飲む、空調が効いた場所で休憩をするなどして熱中症対策をしてください。

・ **水分・塩分補給の目安**
(出典　日本生気象学会:日常生活における熱中症予防指針 Ver. 4, 2022)

- (1)日常生活における水分補給：通常の生活では食事に含まれる水分を除いた飲料として摂取すべき量は1日あたり 1.2ℓを目安とする。
- (2)運動時や作業時の補給：水分の補給量は体重減少量の7～8割程度が目安となる。体重の2%以上の脱水を起こさないよう注意する。
大量の発汗がある場合は、スポーツ飲料などの塩分濃度0.2%程度の水分を摂取する。
作業前：コップ1～2杯程度の水分・塩分を補給する(コップ1杯200ml)。
作業中：コップ半分～1杯程度の水分・塩分を20～30分ごとに補給する。
作業後：30分以内に水分・塩分を補給する。
- (3)飲酒時の補給：アルコール飲料は利尿を促進するので、飲酒後は水分・塩分を十分に補給する。
- (4)空調装置使用時の補給：空気が乾燥するので、こまめに水分・塩分を補給する。

・ **特に注意を要する事項(熱中症弱者の温度基準域)**
(出典　日本生気象学会:日常生活における熱中症予防指針 Ver. 4, 2022)

- 以下の項目に該当する場合は、特に注意が必要であり、一つ上の温度基準域の「注意事項」を適用する。本人のみならず、周囲の人々の注意も必要である。
- a. 幼児・学童は体温調節機能が未発達であり、保護者の対応が不適切になると発症しやすい。
 - b. 65歳以上の高齢者、特に75歳以上の後期高齢者は発汗能や口渴感等、体温調節機能が低下する。このために熱中症を発症しやすい。
 - c. 肥満者は、より体温が上昇しやすい傾向にあるため、熱中症を発症しやすい。
 - d. 仕事や運動(スポーツ)に無理をしすぎる人、頑張りすぎる人は熱中症を発症しやすい。
 - e. 基礎疾患(高血圧、心疾患、慢性肺疾患、肝臓病、腎臓病、内分泌疾患など)のある人、寝たきりの人は発症しやすい。熱中症の発症を助長する以下のような薬を服用している人も発症しやすい。抗コリン作用のある薬(鎮痙薬*、頻尿治療薬*、パーキンソン病治療薬*、抗ヒスタミン薬、抗てんかん薬、睡眠薬・抗不安薬、自律神経調節薬、抗うつ薬、 β 遮断薬、ある種の抗不整脈薬、麻薬)は発汗抑制を来たす可能性がある。利尿剤は脱水を来たしやすい。興奮剤・覚せい剤は代謝を亢進させる。多くの抗精神病薬*は体温調節中枢を抑制する可能性がある。*医薬品添付文書に、「発汗(あるいは体温調節中枢)が抑制されるため、高温環境では体温が上昇するおそれがある」との記載のある薬品。
 - f. 発熱、下痢、二日酔い、睡眠不足等、体調不良の場合は発症しやすい。
 - g. 農作業、安全対策作業等で厚着、安全服等で全身を覆う場合は発症しやすい。
 - h. 急激に高温となった場合。例えば暑さに慣れていない6月以前、また、日常生活で高温暴露の経験が少ない場合、旅行や移動(涼しい場所から高温の場所へ)の場合および気象変化などで急激に高温となった場合なども発症しやすい。

■ **熱中症警告表示方法について**

温度計の指針と湿度計の指針が交差している位置が下記の警告に該当します。

	注意	警戒	厳重警戒	危険
熱中症 (WBGT)	 黄緑色ゾーン	 黄色ゾーン	 橙色ゾーン	 赤色ゾーン

WBGT による温度基準域

注意 25℃未満	警戒 25℃以上 28℃未満	厳重警戒 28℃以上 31℃未満	危険 31℃以上
-------------	-------------------	---------------------	-------------

日本生気象学会：日常生活における熱中症予防指針 Ver. 4, 2022

熱中症の症状と対策

- ・ 注 意：熱中症の危険は少ないですが、兆候に注意しましょう。
スポーツなどの活動をしている方は、適度な水分補給を心がけましょう。
- ・ 警 戒：熱中症の危険が増えています。
スポーツなどの活動をしている方はこまめに休息をとり積極的に水分補給をしましょう。激しい運動は30分おきくらいに休息をとりましょう。
- ・ 厳重警戒：熱中症の危険が高まっています。
スポーツなどの活動をしている方は激しい運動を避けてください。体力の低い方、暑さに慣れていない方は運動を中止してください。積極的に休息と水分補給を行ってください。
- ・ 危 険：熱中症の危険があります。
特別の場合以外はすべての運動を中止してください。体温の上昇に注意し、十分な休息と水分補給を行ってください。

■ **インフルエンザ警告表示方法について**

湿度とインフルエンザウイルスの関係

温度計の指針と湿度計の指針が交差している位置が下記の警告に該当します。

色表示	絶対湿度 ^{※1}	インフルエンザウイルス 感染の危険度	感染対策	生存率 ^{※2}
安全				
 白色ゾーン	17g/m ³ 以下	通常の生活環境	温度・湿度を適度に保つ ようにしましょう	ほぼ0%
注意				
 水色ゾーン	11g/m ³ 以下	インフルエンザウイルスが生存可能 感染に注意が必要な 環境	温度・湿度の変化に 注意しましょう	5%
警戒				
 青色ゾーン	7g/m ³ 以下	インフルエンザウイルスの生存に適した 状態 感染しやすい環境	加湿器などで温度・湿度の 調節をしましょう 過剰に加湿した場合はカビ の発生に注意してください。	20%

※1 絶対湿度

一般的に湿度を表す場合は相対湿度であり、ある温度の空気中に含むことができる最大限の水蒸気量に比べて、実際のどの程度の水蒸気量を含んでいるかを%(単位)で表します。絶対湿度とは、温度に関係なく1m³の空気中に含まれる水蒸気の質量のことでg/m³(単位)で表します。例えば相対湿度が同じ50%の場合でも、20℃では絶対湿度約9g/m³、30℃では15g/m³と異なります。本製品のインフルエンザ警告表示は絶対湿度に換算した値で表示しています。

※2 生存率

空気中に放出されたインフルエンザウイルスの各環境下における6時間後の値。